消　防　年　報

平 成 ２０ 年 版

佐 渡 市 消 防 本 部

（ 平 成 ２１ 年 発 行 ）

消　　防　　年　　報

郵便番号　９５２－１３１１
編集発行　新潟県佐渡市八幡１８８１番地１
佐渡市消防本部
TEL　０２５９―５２－３９４１
FAX　０２５９－５２－５６５１
E-meil:sf-somu@city.sado.niigata.jp

目　　次

１．はしがき

２．佐渡市消防本部の沿革　佐渡市の位置及び地勢・・・・　1

管内位置図・・・・・・・　2

歴代消防長・署長・・・・・・　3

佐渡市消防の沿革・・・・・・　5

１．総務編

１－１　佐渡市消防本部機構図・・・・・・・・・・・・・・・　17

１－２　佐渡市消防本部事務分掌・・・・・・・・・・・・・・　18

１－３　消防庁舎の所在地・・・・・・・・・・・・・・・・・　21

１－４　消防職員階級別配置状況・・・・・・・・・・・・・・　26

１－５　消防職員階級別年齢調・・・・・・・・・・・・・・・　26

１－６　消防職員在職年数調・・・・・・・・・・・・・・・・　27

１－７　消防職員の研修・教育等実施状況・・・・・・・・・・　27

１－８　消防職員資格免許等一覧表・・・・・・・・・・・・・　28

１－９　平成２０年度　主要事業・・・・・・・・・・・・・・　29

１－10　年度別一般会計予算・決算・・・・・・・・・・・・・　33

１－11　消防費の人口・世帯当たりの歳出額・・・・・・・・・　33

１－12　消防関係表彰状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・　34

１－13　消防相互応援協定・・・・・・・・・・・・・・・・・・　35

２．　警防編

２－１　消防通信施設状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・　36

２－２　無線電話機設置状況・・・・・・・・・・・・・・・・・　36

２－３　水利の状況　　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　37

２－４　消防用車両等の配置状況・・・・・・・・・・・・・・・　38

２－５　消防用車両等の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・　39

２－６　特殊機械器具等現有状況・・・・・・・・・・・・・・・　44

２－７　気象状況

（１）　気温・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　48

（２）　湿度・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　48

（３）　雨量・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　49

（４）　風向・風速・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　49

（５）　降雪・積雪・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　50

（６）　警報・注意報発表状況・・・・・・・・・・・・・・・　50

３．火災編

３－１　平成２０年　月別火災発生状況・・・・・・・・・・　51

３－２　年別・地区別・種別火災発生状況・・・・・・・・・　52

３－３　年別火災原因調・・・・・・・・・・・・・・・・・　54

３－４　平成２０年火災発生時刻と覚知方法・・・・・・・・　55

３－５　平成２０年消防機関の出動状況・・・・・・・・・・　56

３－６　過去の地区別火災発生状況・・・・・・・・・・・・　57

３－７　過去の曜日別火災発生状況・・・・・・・・・・・・　57

３－８　過去における主な火災記録・・・・・・・・・・・・　58

４．救急・救助編

４－１　年別・事故別救急出場状況・・・・・・・・・・・・　59

４－２　地区・事故別救急出場状況・・・・・・・・・・・・　60

４－３　時刻・事故別搬送人員調・・・・・・・・・・・・・　61

４－４　月・事故別搬送人員調・・・・・・・・・・・・・・　62

４－５　曜日・事故別搬送人員調・・・・・・・・・・・・・　63

４－６　症状別搬送人員調・・・・・・・・・・・・・・・・　63

４－７　医療機関別搬送人員調・・・・・・・・・・・・・・　64

４－８　年齢・事故別搬送人員調・・・・・・・・・・・・・　65

４－９　救急隊員の行った応急処置状況調・・・・・・・・・　65

４－10　現場到着所要時間別出場件数調・・・・・・・・・・　66

４－11　普通救命講習等実施状況・・・・・・・・・・・・・　66

４－12　救助活動状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・　67

４－13　消防救助技術大会出場状況・・・・・・・・・・・・　68

５．予防・危険物編

５－１　防火対象物過去５年間の推移・・・・・・・・・・・　69

５－２　業態別中高層防火対象物数・・・・・・・・・・・・　70

５－３　防火対象物署別一覧表・・・・・・・・・・・・・・　71

５－４　防火対象物別消防用設備等設置状況・・・・・・・・　72

５－５　防火管理者を必要とする防火対象物及び
　　選任状況（甲種・乙種防火対象物）・・・・・・・・　73

５－６　火災予防条例による届出状況・・・・・・・・・・・　74

５－７　建築確認申請同意事務処理状況・・・・・・・・・・　75

５－８　建築確認申請月別処理状況・・・・・・・・・・・・　75

５－９　火災予防査察実施状況・・・・・・・・・・・・・・　76

５－10　予防関係事務処理状況・・・・・・・・・・・・・・　77

５－11　事業所別消防訓練指導状況・・・・・・・・・・・・　78

５－12　広報活動状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　79

５－13　署別危険物施設の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・　80

５－14　危険物施設の推移・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　81

５－15　製造所等の地区別危険物指定数量倍数・・・・・・・・・　82

５－16　月別危険物施設事務処理状況・・・・・・・・・・・・・　83

５－17　危険物規制事務手数料・・・・・・・・・・・・・・・・・　84

５－18　危険物製造所等の立入検査状況・・・・・・・・・・・・　85

５－19　危険物製造所等の申請件数・・・・・・・・・・・・・・　86

６．消防団編

６－１　佐渡市消防団組織図・・・・・・・・・・・・・・・・・・　87

（１）中央消防団・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　88

（２）両津消防団・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　89

（３）相川消防団・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　90

（４）南佐渡消防団・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　91

６－２　歴代消防団長・副団長・・・・・・・・・・・・・・・・　92

６－３　消防団員職業別人員調・・・・・・・・・・・・・・・・　95

６－４　消防団員勤続年数調・・・・・・・・・・・・・・・・・　95

６－５　消防団員年齢別人員調・・・・・・・・・・・・・・・・　95

６－６　消防団員報酬・費用弁償・機械器具管理委託費・・・　96

６－７　消防団員の消防学校教育受講状況・・・・・・・・・　96

６－８　消防団員の退職状況・・・・・・・・・・・・・・・・　97

６－９　消防団員の新任状況・・・・・・・・・・・・・・・・　97

６－10　平成２０年度消防団主要事業・・・・・・・・・・・・　98

はしがき

この年報は、佐渡市消防本部の消防現勢と、平成２０年の業務実績を収録し、消防行政の合理的な運営と消防力の充実強化に資することを目的として作成しました。

また、管内における災害実態や消防及び救急活動の現状など広く一般に紹介し、消防行政に対する理解と協力をお願いするとともに住民の防火思想の高揚をはかるものであります。

平成２１年７月

佐渡市消防本部

佐渡市の位置及び地勢

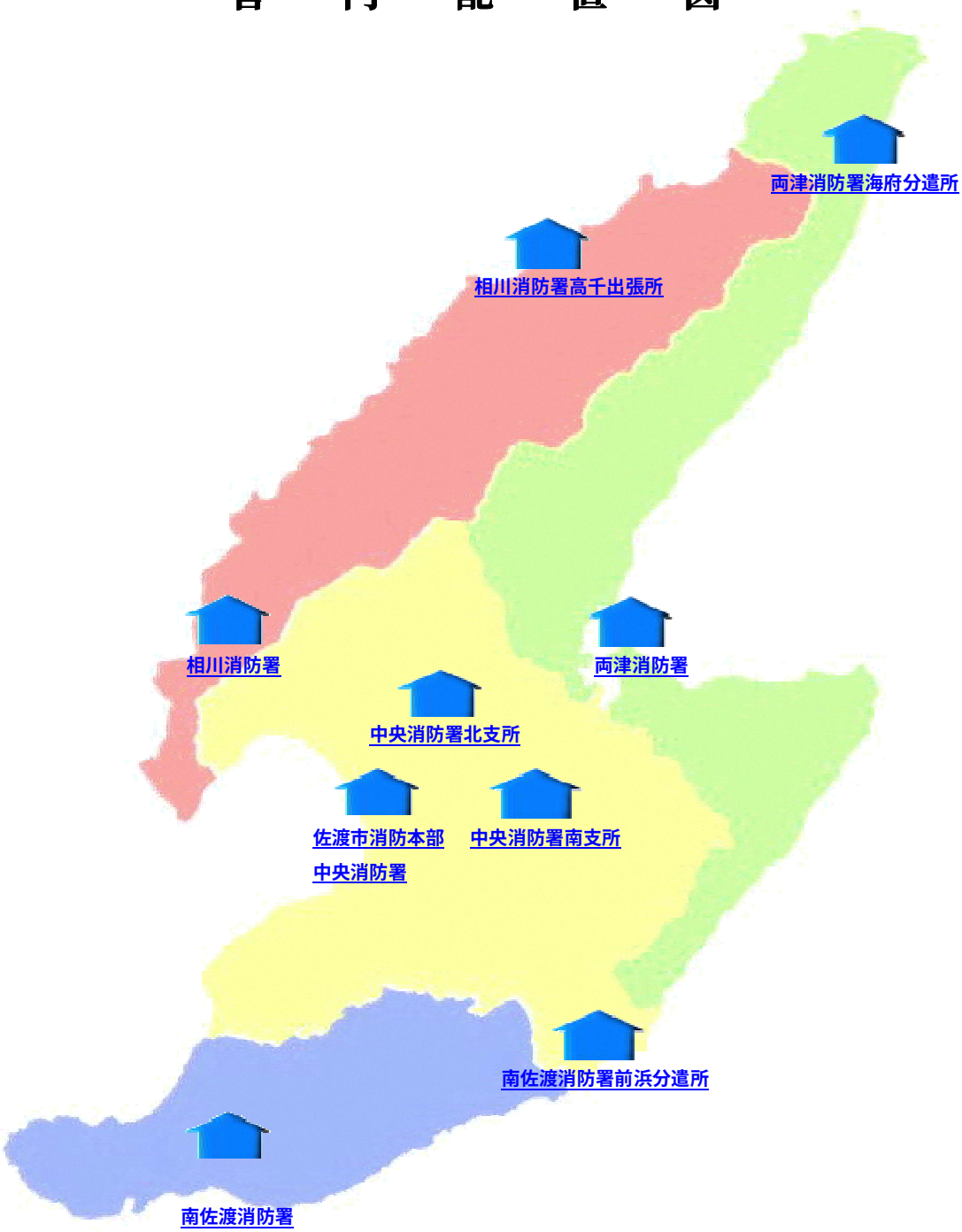
本市は、日本海の中央に位置する佐渡島であり、面積８５５，２７ｋ㎡、周囲２８０，４㎞に及ぶ海岸線は変化に富み、美しい景観を形成している。島の中央部を国府川が流れ、この流域に開けた穀倉地帯国仲平野を挟んで、北に大佐渡山地、南に小佐渡丘陵を擁し、島の大部分が国定公園や県立自然公園に指定され、平成２０年９月に１０羽の試験放鳥を実施した国際保護鳥トキが生息していたように、豊で美しい自然環境に恵まれている。

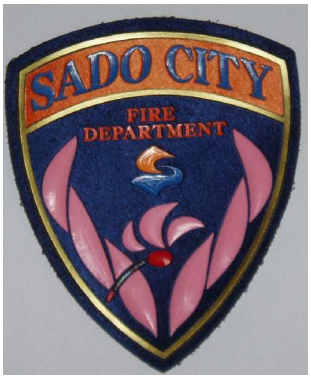
気候は海洋性で、四季の変化に富み、夏は高温多湿であるが、冬は日本海を北上する対馬暖流の影響をうけ雪も少なく、温暖な特性があり、新潟本土と比べ気温の平年値１３．６℃と比較的高く、年間降水量も１，６００～１，７００㎜で少ない。

佐渡市の人口は、平成１６年３月１日発足時７０，０１５人、平成２１年４月１日現在６５，０５５人で少子高齢化・過疎化が進んでいる。

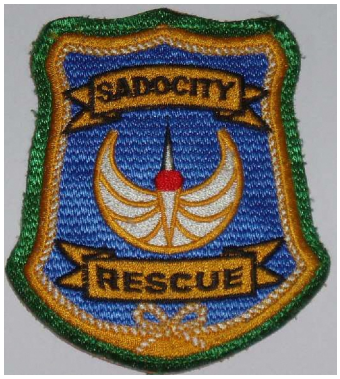
昭和２８年の町村合併促進法により、１市７町２村から、２１世紀を迎え地方分権時代の到来の中、平成１６年３月１日に１島１市の市町村合併が行われ『佐渡市』が誕生し現在に至っています。

管　内　配　置　図





佐渡市消防本部エンブレム



佐渡市救助隊エンブレム

歴　代　消　防　長

歴 代	氏　　名	在　　職　　期　　間	備　　考
初代	加 藤 侑 作	自　平 成 16 年 3 月　1日 至　平 成 18 年 3 月 31日	
二代	渡 辺 与 四 夫	自　平 成 18 年 4 月　1日 至　平 成 20 年 3 月 31日	
三代	加 藤 貴 一	自　平 成 20 年 4 月　1日	

歴 代 中 央 消 防 署 長

歴 代	氏　　名	在　　職　　期　　間	備　　考
初代	中　川　　茂	自　平 成 16 年 3 月　1日 至　平 成 17 年 3 月 31日	
二代	加 藤 貴 一	自　平 成 17 年 4 月　1日 至　平 成 20 年 3 月 31日	
三代	安 達 吉 行	自　平 成 20 年 4 月　1日 至　平 成 21 年 3 月 31日	
四代	金 子 浩 三	自　平 成 21 年 4 月　1日	

歴 代 両 津 消 防 署 長

歴 代	氏　　名	在　　職　　期　　間	備　　考
初代	加 門 俊 行	自　平 成 16 年 3 月　1日 至　平 成 18 年 3 月 31日	
二代	飯 田 忠 一	自　平 成 18 年 4 月　1日 至　平 成 21 年 3 月 31日	
三代	佐 藤 恭 太 郎	自　平 成 21 年 4 月　1日	

歴 代 相 川 消 防 署 長

歴 代	氏　　名	在　　職　　期　　間	備　　考
初代	服 部 恵 男	自　平 成 16 年 3 月　1日 至　平 成 18 年 3 月 31日	
二代	山 本 一 夫	自　平 成 18 年 4 月　1日	

歴 代 南 佐 渡 消 防 署 長

歴 代	氏　　名	在　　職　　期　　間	備　　考
初代	磯 部 敏 晴	自　平 成 16 年 3 月　1日 至　平 成 18 年 3 月 31日	
二代	加 門 俊 行	自　平 成 18 年 4 月　1日 至　平 成 20 年 3 月 31日	
三代	斎 藤 昭 博	自　平 成 20 年 4 月　1日 至　平 成 21 年 3 月 31日	
四代	高 津 十 三 雄	自　平 成 21 年 4 月　1日	

佐渡市消防の沿革

平成１６年

３月１日　島内１０ヶ市町村合併により、佐渡市消防本部発足

１本部・４署・２支所・１出張所　署員２０４人

消防本部・中央消防署	５２人（本部専任２人・主任以上本部兼任）
両津消防署	３８人
相川消防署	２６人
南佐渡消防署	４０人
中央消防署北支所	１８人
中央消防署南支所	１８人
相川消防署高千出張所	１２人

４月　消防職員７人採用

９月　緊急広報連絡車購入　消防本部中央署に配備

防火水槽蓋附設工事実施

（四日町・静平・畑野・八幡新町地区）

10月　新潟県中越大震災被災地隊員派遣（新潟県広域消防相互応援協定）

一次派遣隊　救急隊２隊

二次派遣隊　救急隊２隊

三次派遣隊　救急隊２隊

11月　４０㎥型耐震性貯水槽設置

（高千・小野見・上矢馳・大和・三宮・大橋・旭地内）

12月　４０㎥型耐震性貯水槽設置

（加茂歌代・黒姫地内）

小型動力ポンプＢ－３級配備

（両津消防団　岩首分団第４部・吉井分団第５部・河崎第２分団第３部）

小型動力ポンプ軽積載車配備

（中央消防団　第１分団第５部・第２分団第４部・第４分団第３部）

平成１７年

１月　４０㎥型耐震性貯水槽設置

（吉井本郷地内）

２月　小型動力ポンプ付水槽車を相川消防署に配備

４月　消防職員１人採用

４月　　小型動力ポンプ B－３級配備
（両津消防団加茂第３分団第１部・河崎第１分団第５部・河崎第２分団第３部）
６月　　４０㎥型耐震性貯水槽設置
（椿尾地内）
７月　　救助工作車Ⅱ型購入　両津消防署に配備
４０㎥型耐震性貯水槽設置
（鷲崎地内、泉地内、貝塚地内、丸山地内、赤泊地内）
８月　　消防ポンプ自動車 CD－Ⅰ配備
（中央消防団第１分団第１部・第４分団第１部）
４０㎥型耐震性貯水槽設置
（吾潟藤巻地内、吾潟田ノ浦地内、羽茂大橋地内、八幡町地内）
９月　　消防防災用自動車配備
（中央消防団第１分団第２部・第２分団第５部・第６分団第５部）
消防緊急広報連絡車購入　消防本部中央署に配備
10 月　　高規格救急自動車購入　両津消防署に配備
平成１８年
２月　　消防ポンプ付水槽車購入　消防本部中央署に配備
３月　　４０㎥型耐震性貯水槽設置
（市野沢地内、新穂大野地内、相川坂下町、羽茂上山田）
６０㎥型耐震性貯水槽設置
（千種地内）
４月　　消防職員７人採用
６月　　４０㎥型耐震性貯水槽設置
（達者地内）
10 月　　４０㎥型耐震性貯水槽設置
（東大通地内、長石地内、上横山地内）
11 月　　小型動力ポンプ付積載車購入　消防本部中央署、海府分遣所、前浜分遣所に配備
小型動力ポンプ付積載車配備
（中央消防団第４分団第２部、中央消防団第６分団第６部、相川消防団第５分団第２部）
12 月　　救急自動車２Ｂ型購入　海府分遣所に配備

12 月　　小型動力ポンプ付水槽車購入　海府分遣所、前浜分遣所に配備）

平成１９年

１月　　４０㎥型耐震性貯水槽設置
（上横山地内）

４月　　消防職員４人採用

７月　　新潟県中越沖地震被災地隊員派遣（新潟県広域消防相互応援協定）
救助隊１隊５名　消火隊１隊５名　救急隊１隊３名　支援隊１隊２名

８月　　４０㎥型耐震性貯水槽設置
（長江地内）

９月　　４０㎥型耐震性貯水槽設置
（小木地内、新穂地内）

11 月　　４０㎥、１００㎥型耐震性貯水槽設置
（八幡地内）

12 月　　高規格救急自動車（消防緊急援助隊設備整備費補助事業）消防本部中央署に配備
小型動力ポンプ付軽積載車配備（日本損害保険協会寄贈）
（両津消防団河崎第二分団第４部）

平成２０年

１月　　消防ポンプ自動車 CD－Ⅰ配備
（南佐渡消防団第一分団３部）
小型動力ポンプ軽積載車配備
（両津消防団河崎第一分団第１部、相川消防団第２分団５部、第４分団２部）

２月　　消防団多機能型車両（財団法人日本消防協会寄贈）中央消防団本部配備

９月　　救急自動車２Ｂ型購入　前浜分遣所に配備

10 月　　４０㎥型耐震性貯水槽設置
（畑野地内、金井新保地内、羽茂本郷地内）

11 月　　４０㎥型耐震性貯水槽設置
（平松地内）
両津消防団河崎第一分団河崎・真木分団機械器具置場新築
小型動力ポンプ軽積載車配備
（両津消防団河崎第一分団第５部、相川消防団第４分団３部）

12 月　　４０㎥型耐震性貯水槽設置

（住吉地内）

相川消防団第４分団石花・後尾分団機械器具置場新築

合併前の各消防本部の沿革

佐渡消防本部

昭和４６年４月１日

佐渡消防事務組合設立　（佐和田町・金井町・畑野町・真野町・新穂村）

消防本部・消防署発足　１２人で業務開始

６月　消防職員１名採用（女性）　　１３人

８月　消防職員１０名採用　　２３人

９月　消防本部、本署新庁舎建設はじまる

昭和４７年

３月　消防職員３２名採用　　５５人

３月　消防本部、本署の新庁舎３月 10 日竣工移転

４月　消防職員１名採用　　５６人

８月　消防職員１５名採用　　７１人

８月　消防署北・南支所新庁舎８月 10 日竣工移転

昭和５１年

９月　屈折はしご付消防ポンプ自動車１６㍍級購入

昭和５３年

４月　消防業務の執行体制を強化するため署に課制を敷く

昭和５６年

４月　消防職員１名採用　　７２人

昭和５８年

４月　消防職員４名採用　　７６人

４月　救助隊発足　隊員（兼務）　　１０人

12 月　認定工場竣工

昭和５９年

９月　特別救助隊員増員（兼務）　　１４人

昭和６０年

４月　特別救助隊員増員（兼務）　　２１人

昭和６２年

４月　特別救助隊員増員（兼務）　　２２人

昭和６３年

４月　特別救助隊員増員（兼務）　　２３人

平成２年

４月　特別救助隊員増員（兼務）　　２５人

平成３年

４月　消防職員２名採用　　７８人

４月　特別救助隊員増員（兼務）　　２７人

平成４年

４月　消防職員１名採用　　７９人

平成５年

２月　救助工作車Ⅱ型購入

４月　消防職員２人採用　　８１人

平成６年

４月　消防職員２名採用　　８３人

平成８年

４月　消防職員２名採用　　８５人

平成１０年

３月　３０㍍級はしご付消防ポンプ自動車購入配備

平成１１年

３月　畑野町松ヶ崎地区緊急情報システム竣工

４月　消防職員４名採用

11月　松ヶ崎地区緊急情報システムいこいの村佐渡増設工事竣工

平成１２年

４月　消防職員５名採用

救助隊員増員（兼務）　　３０人

平成１３年

４月　消防職員４名採用

救助隊員　　２９人

平成１４年

４月　消防職員５名採用

平成１５年

３月　高規格救急自動車購入配備

４月　消防職員１名採用

平成１６年

１月　消防職員１名採用

２月　佐渡消防事務組合消防団解団式

　　佐渡市中央消防団団結式

３月１日　合併により、佐渡市消防本部・中央消防署となる

両津市消防本部

昭和２９年

11月　両津市消防本部・消防署発足　（11月3日）

消防署員１１名

昭和３０年

１月　合併に伴い、町村消防団を解き、両津市消防団と改める

昭和３１年

７月　消防庁舎完成　消防職員２名採用

消防職員１３名

昭和３２年

４月　消防職員１名採用　１４人

昭和３５年

消防職員２名採用　１６人

昭和３６年

消防職員４名採用　２０人

昭和３７年

消防職員４名採用　２４人

昭和４０年

県から防災工作車譲り受け配備

昭和４４年

化学消防車購入配備

市立両津病院から救急自動車を移管、救急業務開始

消防職員１名採用　２５人

昭和４６年

消防職員１名採用　２６人

昭和４７年

消防署員２名採用　２８人

昭和４８年

消防署員１名採用　２９人

昭和５０年

消防職員１名採用　３０人

昭和６０年

４月　消防庁舎・訓練等・防災資材倉庫完成　業務開始

化学消防ポンプ自動車（Ｉ型・Ａ２級）更新

昭和６１年

２４㍍級はしご付消防ポンプ自動車購入配備

昭和６２年

救助工作車購入配備

平成２年

消防職員３名採用　　３３人

平成３年

消防職員４名採用　　３７人

平成４年

消防職員１名採用　　３８人

平成６年

救助訓練用補助塔完成

平成１２年

化学消防ポンプ自動車Ｉ型更新

消防職員１名採用　　３９人

平成１３年

水難救助隊発足

消防職員条例定数　　３８人

平成１６年

３月１日　合併により、佐渡市両津消防署となる

相川町消防本部

昭和 41 年

４月　相川町消防本部設置　消防署員９名

11 月　高千出張所設置　　消防署員２名

11 月　消防職員４名採用　　１３人

昭和４２年

４月　相川町消防署設置　　１３人

９月　消防職員１名採用　　１４人

昭和４３年

１月　消防職員１名採用　　１５人

昭和４４年

７月　消防職員１名採用　　１６人

９月　消防職員１名採用　　１７人

昭和４５年

３月　消防職員１名採用　　１８人

昭和４６年

６月　相川町消防署、行政指定受ける

昭和４７年

１月　救急業務開始

６月　消防職員２名採用　　２０人

昭和４８年

４月　消防職員２名採用　　２２人

本署　１７名　出張所　５名

昭和５０年

９月　消防職員１名採用　　２３人

本署　１７名　出張所　６名

昭和５３年

７月　消防庁舎完成

昭和５８年

４月　行政職より１名公安職へ　　２４人

10 月　高千出張所庁舎完成

昭和５９年

４月　消防職員１名採用　２５人

昭和６２年

９月　行政職へ１名　消防職員３名採用　２７人

平成２年

１月　救助工作車購入配備

４月　消防職員３名採用　３０人

平成３年

３月　消防緊急情報システム指令装置購入

４月　消防職員３名採用　３３人

本部　２１人　出張所　１２人

８月　高千出張所救急車配備、救急業務開始（８月８日）

平成６年

４月　消防職員３名採用　３６人

本部　２２人　出張所　１４人

平成７年

４月　消防職員２名採用　３８人

平成１４年

４月　消防職員１名採用　３９人

平成１６年

３月１日　合併により、佐渡市相川消防署となる

南佐渡消防本部

昭和５５年

４月　南佐渡消防事務組合発足　職員１１人

９月　消防庁舎完成　（本署・小木分遣所・赤泊分遣所）

消防職員９名採用　２０人

10月　消防署業務開始　（小木・赤泊分遣所　１名勤務）

昭和５６年

４月　消防職員７名採用　２７人

昭和５８年

４月　消防職員３名採用　３０人

昭和５９年

４月　消防職員３名採用　３３人

昭和６１年

４月　消防職員４名採用　３７人

４月　救助隊発足（兼務）　１６人

平成４年

４月　消防職員２名採用　３９人

平成５年

６月　水難救助隊発足

平成６年

４月　１本部・１署・２分遣所を１本部・１署・１救急隊詰所に統廃合する

４月　消防職員１名採用　４０人

平成８年

４月　消防職員２名採用　４２人

平成１１年

12月　赤泊救急隊詰所閉所、１本部・１署になる

平成１４年

３月　羽茂町消防団・小木町消防団・赤泊村消防団を解散

４月　南佐渡消防団発足

平成１６年

２月　南佐渡消防事務組合解散

３月１日　合併により、佐渡市南佐渡消防署となる